

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LESSON 1 授業例①

A.S. 先生

## 指導計画表

(全7時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■ プレ活動 ■ GET ・ 文法の復習 ・ Drill ・ 語句の導入
2	■ プレ活動 ■ GET ・ 本文の導入・理解
3	■ GET ・ 本文の復習 ・ Practice
4	■ USE Read ・ ハワイについての説明語句の導入 ・ 本文の導入
5	■ USE Read ・ 本文の理解
6	■ USE Write ・ 語句の補足 ・ 作文
7	■ USE Write ・ 作文の発表

## 実践例

### 1. LESSON 1 のねらい

学年が改まり、多くの生徒は気持ちを新たに学習に取り組もうと授業に臨んでいます。その気持ちを潰さずに、負荷をかけることでさらにモチベーションを上げていけるような活動を取り入れるよう心がけています。

例えば、年度末の生徒アンケートによると、多くの生徒が英語を話す活動に楽しさを感じており、また、伸ばしていきたいと願っています。そこで、話す・聞く活動をペア、インタビューなど形式を変えてできるだけ組み入れます。同時に、動詞の原形と過去形を覚えてくる課題を春休みに出している中で、活動の中で活用できると望ましいと考えました。逆に、多くの生徒が長文を読み取ることや作文に苦手意識を感じています。この LESSON の Read はそんなに長い文章ではありませんが、後置修飾の文も入っていますので、グループワークで課題を完成する形を取りました。また、LESSON の終わりには『春休みの思い出』という作文を書く活動が入っていますので、事前に、構えずに身近な話題を文にできるように書く活動も回数を増やして取り組ませたいところです。

一般動詞の過去形は既習ですので、LESSON 1 全体を通して、生徒自身に話したり書いたり表現する楽しさを味わわせたいと思いました。

### 2. 指導の流れ

#### ■Class 1

##### Warm Up

昨年度から授業の最初の帯活動で会話活動を取り入れています。『Really?』『Why?』『I think so.』などの表現は教科書で習う前でも会話の中では使えています。この授業は最初なので、話題は慣れ親しんでいる現在形で『What do you usually do in your free time?』で行いました。

##### GET

ここでの文法学習は一般動詞の復習なので、ポイントの説明を英語で行いました。次に Drill で過去の

文を確認しました。文が書けたかどうかは周りの友人とチェックし合い、学び合う雰囲気を作るよう心がけています。最後に語句の導入をして次時につなげました。前日の日記(5文)を宿題として出しました。

#### ■Class 2

##### Warm Up

前の授業とは相手を変えて会話をしました。Practice の 2 にある『What did you do during the spring vacation?』で話しました。会話を終えた後は得られた相手の情報をシェアする時間をもち、クラス全体でトピックを楽しみました。この話題は他に比べてバリエーションがあるので、生徒たちは興味をもって聞き、友人の春休みについて知って楽しそうでした。不規則動詞の過去形がうまく使えていない生徒が少なくなかったので、最後に全体で確認をしました。

##### GET

Paul の春休みについて、ということで Warm Up の続きの流れで本文を導入しました。

本文は、Picture Card で Interaction をして内容を確認します。Reading を練習した後、本文中の大切な部分の説明をし、生徒にメモを取らせるという流れで学習します。

春休みは部活動に追われる生徒も多く遠出できる生徒は一部のせいか、ハワイに行くという設定も他人事のような様子でした。

前時に宿題として出した日記は、添削してすぐに返却し、次の授業までの日数分を宿題として出しました。

#### ■Class 3

##### Warm Up

『What country do you want to visit?』という話題で会話活動をしました。理由やそこで何をしたいかも聞くように質問文や例を示して練習し、時間いっぱい会話を続けるという目標を設定して取り組みました。会話の弾み具合は個人差が大きいようでした。「今までそんなこと考えたこともない」「好

きな外国もない」という生徒もいましたが、好きなスポーツは？」「好きな食べ物は？」などと声をかけると、それをきっかけに話し始められました。シェアリングのときにも他の人の発表を注意深く聞いていました。いきなり発表をさせるのではなく、前時の終わりに予告をして準備させておくとういと思えます。

### **GET**

前時に学習した本文の内容を Picture Card を用いて Q&A、英語でリテリングをして復習し、読みももう一度確認します。

次に p.7 の Practice 1 の Listening, Warm Up の内容を用いて、3 の Writing をしました。

宿題の日記は、英語で書くことに慣れてきた生徒がいる反面、ほぼ同じ内容しか書けていない生徒や提出できない生徒が固定してきました。全員が取り組むよう個別に声をかけました。

### ■Class 4

#### **Warm Up**

ハワイの写真を見せながら Q&A をしたり、生徒のもっているハワイのイメージを聞いたりしました。生徒のもっているイメージは「芸能人がお正月に行く」「フラダンスがある」くらいしかなく、豊かな山や火山、食べ物の写真に興味を示しました。

#### **USE Read**

語句の導入をし、Picture Card で文章全体の大意をつかむ Q&A をして、本文の日本語訳（穴埋め方式）に挑戦させました。生徒が苦戦していた箇所は後置修飾の入っている、次の 2 文でした。

- ・ The actions in the dance have meaning.
- ・ Some dances tell stories of our ancestors and our history.

宿題の日記は、次の授業までの毎日書く、というペースで続いています。添削は ALT にも手伝ってもらいました。

### ■Class 5

#### **Warm Up**

ハワイについてのクイズを出し、地理、歴史、文化、気候、食べ物等について理解を深めました。クイズ形式は誰もが楽しめる反面、知識の定着が図りづらいので、最後におさらいをしました。

#### **USE Read**

本文を日本語訳したものをクラスで確認しました。わからなかった部分は友人にたずねる時間を設け、その後全員で発表し合いました。

最後にハワイについて初めて知ったことや印象に

残ったことを話し合い、発表する時間を設けました。ハワイの豊かな自然と歴史を知り、ハワイの人たちがそれを大切に扱っていることに気付いたという感想をもった生徒が多数いました。

### ■Class 6

#### **Warm Up**

5~6 人のグループに分かれて、一般動詞の原形と過去形を使った、カードゲームの「神経衰弱」をして復習をしました。その後、グループに分かれて英文を作るゲーム「go to sleep」をして、語順の確認をしました。練習した英文は、

- ・ I went to the library by bus yesterday .
- ・ Ken visited his aunt in Tokyo during the spring vacation.
- ・ We did our homework in the morning last Saturday.

#### **USE Write**

春休みについての作文を書きました。

資料は、和英辞書、一般動詞一覧表、サンプル、春休みの計画表（春休み前に各自が作成したもの）を準備しました。

英語の授業用のグループ（5~6 人で、各グループに英語の習熟度の高い生徒が配置されている）に分かれ、春休みについて最低 5 文、目標 10 文以上で作文しました。

生徒は、一旦個人個人で集中して取り組んだ後、英語が不得手な生徒は周りの生徒に質問をして作文していきます。そういった生徒ほど英語にしにくい日本語のまま英語にしようとする傾向にあります。英語が得意な生徒と一緒に考えても辞書の難しい表現を使おうとしますので、机間巡視をしながらできるだけ簡単な表現に直すようアドバイスします。簡単な日本語にするとニュアンスが違ってしまおうと抵抗を示す生徒も少なくありませんが、表現が正しくなくて相手に伝わらないより、少しでも自分の伝えたいことに近い表現で伝える方が良いのでは、と個人的に話すことで納得することが多いです。

この感覚は、慣れが必要です。数をこなすことでできるようになることが多いので、折に触れて書かせていきたいと思っています。

## ■Class 7

### Warm Up

前時に書いた作文を発表する準備をしました。評価の基準は、暗記してくるのを基本として、声の大きさ、聞きやすさなど、聞き手を意識した発表になっているか、ということを中心に話しました。この時間に教師と発音を確認したり、何度も原稿を読み込んだりしていました。

### USE Write

まず、グループの中で発表をして、聞いている生徒は発表の評価をしました。発表の後、良かった点と改善点を本人に伝えさせ、発表者本人がメモを取る時間も取りました。

グループの中で一番良い発表と思われるものを選び、その6人は前に出て発表を行いました。それぞれの発表の後、良い点や感想などを、聞いていた生徒数人に発表してもらい、よい発表をするための留意点を確認しました。

## 3. 実践内容の評価、生徒の反応

前述したように、この LESSON は新出文法事項がないので、1年生の終わり頃から学習していることの復習と練習がしっかりできます。同時にここで明るい展望を生徒たちがもてるような活動を入れました。

評価としては、

- ①一般動詞の過去形が使いこなせる。
- ②ハワイの歴史や文化と日本のそれらとを比べることができる。
- ③春休みのできごとについて英文で表現することができる。

ということになります。

まず①に関しては、春休みからの課題テストに加え、頻繁に小テストを実施したり、プリントで練習したりするようにしました。最低限、自分のことを表現するのに必要な動詞は現在形、過去形とも文の中で使えるように日記を繰り返し書かせました。ただ、いろいろな表現に挑戦して表現しようとする生

徒は限られているので、全員が自ら表現しようとするように授業の進め方を工夫することが課題です。

②については、クイズ形式の Warm Up や本文の導入で、ハワイについて生徒の興味を引くことができました。単なる観光地というイメージではなく、そこで生きてきた人たちの歴史や生活が世界中の人々を引きつけているという事実を知り、今までとは違った見方ができるようになったという感想を書いた生徒もいました。多くの生徒たちは自分の生活の仕方＝文化という意識をもったことがなく、身の周りの何が日本独特のものなのか考えることもなく過ごしてきたことに気付いたところです。そして諸外国とのあらゆる違いを知ることによって、自分（日本）のことを振り返り、良さも改善点も意識し、改めて感じられるようになれば良いと思います。自分の文化に心から誇りを持てるかどうかはそれから先のことで、そういった方向に向かうきっかけが英語の授業であれば嬉しいことです。

③の、自分の春休みについて作文で表現することについては、生徒の習熟度によってアドバイスを換え、いくつかのパターンを参考に考えるよう促しました。習熟度の高い生徒には、1つの内容について具体的な行動から感想や考えまで読み手を意識して順序を考えて書くように助言しました。反対に英文を書くことに不得手な生徒には、具体的なことを時系列で書くように声をかけました。授業で発表し、発表する際の留意点について学んだ後は掲示用の紙に清書し、廊下に掲示して他のクラスの生徒にもシェアできるようにしました。

生徒の取り組みは一様ではなかったですが、わからないところは気軽に聞き合い、教え合う関係を昨年に引き続き促すことで、出された課題を達成することができました。ちょっと疑問に感じたことを、気軽に聞くことができる存在が身近にあるのは学習者にとってとても大切なことです。また、英語はコミュニケーションのツールですので、コミュニケーションを取ることに慎重な傾向の日本人、しかも中学生が、助けられることに慣れて抵抗がなくなるように訓練をするのは、それ以上に大切です。

そういった意味で、その訓練の第一歩としてはまずまずの出だしでした。